

生涯スポーツの参加動機

—草野球参加者に着目して—

清田 慧 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員：鳥羽 賢二

キーワード：生涯スポーツ，草野球，動機

1. はじめに

近年，国内では平均寿命が延び，超高齢社会へと移っていく中で，健康寿命を延ばすための取り組みが多くなされている。なかでも，運動やスポーツが健康に与える影響は非常に大きいものと言える。現在では，草野球やボウリング，ゴルフ，ゲートボールなど，多種の生涯スポーツが盛んに行われている。

そこで本研究では，著者が競技している草野球をターゲットとし，生涯スポーツの参加者に着目した。草野球に参加する競技者は，どのような動機で参加しているのか，なおかつ，どのような意義や，付加価値があるのかを明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

①文献調査：スポーツ法規，生涯スポーツ関連，ソーシャル・キャピタル論関連，ネットワーク組織論に関する文献調査。

②アンケート調査：草野球チームに参加する競技者 30 名（回収率 100%）を対象とし，参加動機についてのアンケート調査を実施。以上のエビデンスをもとに参加動機について考察する。

3. 調査結果と考察

1) 生涯スポーツの役割について，スポーツ関連法規¹の中では，「生涯スポーツを普及させ，地域社会の活性化や，青少年の健全な心身の発達」に期待されている。総じて少子高齢化の対策や 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて，国民のスポーツに対する意識を向上させたいと考えていることが理解できる。

2) 表 1 は，草野球競技参加者の主な参加動機である。①と回答した参加者は，生涯スポーツの中にも結果にこだわったり，活躍したいという意識があることがわかる。②と③は，年齢によって二分化されていることがわかった。②と答えた参加者は，結果にとらわれず，誰にも

干渉されることがない草野球に，生涯スポーツ

の特徴を味わい，純粋に競技を楽しむことを目的として参加しているのではないかと推察される。③を回答した参加者は，競技を楽しむだけでなく，仲間づくりや世代を超えた他者との交流といった，ネットワーク構築を目的としていることがわかった。このことから，草野球競技は，相互に信頼し合った人と人との繋がりを，互酬性²にて互いにメリットを生み出す資本となっている。すなわち，ソーシャル・キャピタル³の形成に寄与していると考えられる。

表 1：草野球競技参加者の主な参加動機（著者作成）

参加動機	
①	活躍，勝利
②	素直に楽しむことができる，気軽にプレーできる
③	仲間づくり，世代を超えた人との交流

4. まとめ

研究の過程で，参加者の持つ参加動機や価値観，意識が「ネットワーク組織論」や「ソーシャル・キャピタル論」との関連性が深いことが見いだされた。人と人とが繋がり，地域内の人同士でネットワーク組織を構築している。生涯スポーツとして行われている草野球が，実はその組織の中で，相互に良い影響を与え，資本を生み出すような関係，すなわちソーシャル・キャピタルの醸成に寄与している。生涯スポーツは，社会の中で人の巡り合わせや，絆を深めることの場になっていることが伺えるのである。

主な引用・参考文献

日本スポーツ法学会（2011）「スポーツ基本法」，成文堂

²互酬性とは，個人あるいは集団間で，贈与を受けた側が与えた側に何らかの返礼をすることによって，相互関係が更新・持続されること。

「広辞苑」より引用

³パットナムによると，「ネットワーク，規範，信頼などが持つ社会生活上の特徴をしめすもと」である。

Putnam, R (1995)「孤独なボウリング」より引用

¹文部科学省（2011）「スポーツ基本法条文」より引用